

津波浸水予測図の使用にあたっての注意事項

本津波浸水予測図は、満潮時に想定地震（宮城県沖地震（単独）、宮城県沖地震（連動）、昭和三陸地震）が発生した場合に予測される浸水状況を示したものです。対象は宮城県沿岸全域です。

実際に想定地震が発生した場合には、潮位や津波の周期、震源の方向等が想定したケースと異なる場合があるため、浸水状況は変わることがあります。

本津波浸水予測図は地域メッシュを単位として作成しており、範囲名は図の左上に示してあります。また、過去に大きな被害をもたらした地震津波として、1933年昭和三陸地震津波および1960年チリ地震津波の浸水域も表示してあります。

なお、津波数値計算は以下のような条件の下に行っておりますのでご注意ください。

- 1．格子間隔は50mなので、それ以下の規模の地形（陸上、海底）は表現されていません。
- 2．標高については、国土地理院の「数値地図50mメッシュ（標高）」を基本のデータとし、次の6地区についてはより詳細な都市計画図の標高をデータとして用いています。
6地区：仙台塩釜港（仙台港区）、仙台塩釜港（塩釜港区）、石巻港、女川港、気仙沼港、志津川漁港
- 3．防波堤等の海岸構造物については、上記の6地区のみに配置しています。地震によって海岸構造物が部分的に破壊する等の効果は考慮していません。また、上記6地区以外では、防波堤等による津波の遮蔽効果は表現されていません。
- 4．河川については次の6河川のデータを用い、河口から10km以上になった場所では河川としての考慮を打ち切っています。また、流れについては考慮していません。
6河川：阿武隈川、名取川、北上川、旧北上川、鳴瀬川、七北田川
- 5．数値計算上の誤差を考え、浸水深10cm未満については色づけを行っていません。そのため、浸水域が連続しておらず、離れた地点で浸水している場所があります。
- 6．使用しているデータ（陸上、海底、河川）の測量年度は、下絵である2万5千分の1地形図とは異なっています。そのため、図面上では海岸線および河川の位置は必ずしも一致していません。